

伊藤一也組がランサー・エボIIで無敵の4連覇を達成!



BC-1クラスは、このラリーが始まってから無敗を誇る伊藤一也／平野正志組が今回も速さを見せて優勝を飾った。

忠

犬ハチ公のふるさと、秋田県大館市で行われる、「ハチ公ウインターラリー」が、今年も1月26日に開催された。JAF東日本ラリー選手権第2戦とJMRC東北ラリーシリーズ第1戦のWタイトル戦となるが、東日本戦は第1戦が中止となったため、実質的な開幕戦となる。

今回もラリーの拠点は、樹海ドームとして知られてきたニプロハチ公ドームに置かれ、スタート&ゴール、サービスが行われた。ラリーは「越山-二井山」5.97kmと「岩本」1.86kmの2本のSSを使用し、それぞれ3回ずつ走る。両線とも2車線の広い道路で、それゆえアベレージも高い。特に岩本は、スウェディッシュラリーを彷彿とさせるステージだ。

しかしながら、雪があれば本場北海道のスノーラリーにも勝るとも劣らない好ステージは、今年は暖冬の影響をもろに受ける形となった。ラリーウィークの前半に降った雪も、その後の晴天で融け、コースの大半は地の舗装がむき出しとなる事態に。そのため、ラリースタッドレスの使用を避け、一般のスタッドレスタイヤで

ラリーに臨んだクルーも多かったようだ。

なお岩本SSはこのラリーではすっかりのお馴染みのステージだが、越山-二井山SSは前半区間が今回初めて使用するステージになる。最も雪とアイスがあったのが、この区間で、スタート直後の急な登りはスノー&アイスとなっていたため、ここがまずは勝負どころになった。

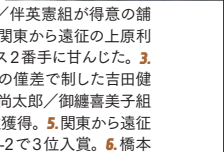
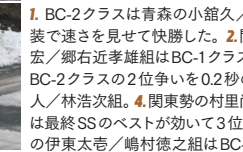
11台が参加したBC-1クラスは昨年の東日本地区戦チャンピオン、上原利宏選手が郷右近孝雄選手とのコンビで1番ゼッケンで参戦。SS1越山-二井山で早速、好タイムをマークするが、岩手の橋本奨／吉田知宏組が上原組のベストを0.8秒更新。続く4番ゼッケンで橋本選手のチームメイトである伊藤一也／平野正志組が橋本組をさらに5.6秒も凌ぐスーパーベストを叩き出してトップに躍り出る。伊藤組は続くSS2岩本でも2番手をキ

ロ1秒突き離すベストを奪い、2度めの越山-二井山となるSS3でも上原組を2.6秒凌いで再びベスト。早々に独走体制を築いて、SS4、SS5も連取。最終のSS6は村里尚太郎／御纏喜美子組にベストを譲るも、2位の上原組に15秒近い大差をつけて逃げ切った。

全国的にはまだ無名に近い存在の伊藤選手だが、実はこのハチ公ウインターラリーが始まった4年前から負けなしの強者だ。



ご覧の通り、HQ&サービスが置かれたニプロハチ公ドームも、まったく雪はなし。来季は期待したい。



1. BC-2クラスは青森の小館久/伴英憲組が得意の舗装で速さを見せて快勝した。2. 関東から遠征の上原利宏/郷右近孝雄組はBC-1クラス2番手に甘んじた。3. BC-2クラスの2位争いを0.2秒の僅差で制した吉田健人/林浩次組。4. 関東勢の村里尚太郎/御縫喜美子組は最終SSのベストが効いて3位獲得。5. 関東から遠征の伊東太吉/嶋村徳之組はBC-2で3位入賞。6. 橋本奨/吉田知宏組はBC-1で4位入賞。7. BRZで健闘の沼尾秀公/沼尾千恵美組がBC-2で4位。8. BC-1で5位入賞の熊坂敏彦/熊坂時男組。9. BC-1で6位入賞の紙谷祐輔/過足宏和組。10. 安達陽平/松本一生組はBC-1で9位。11. 濱道寿幸/伊藤太基組はBC-1で7位。12. BC-1で8位の鈴木歩/藤田勝正組。13. BC-1で10位の松崎裕之/塩田信彦組。14. 佐々木松紀/玉熊彦士組はBC-2で5位。

「何とか今年も勝たせてもらいました。でも4連勝はたまたまですよ」とまずは謙遜した伊藤選手。「今回はとんでもなく速い人(上原選手)が参加されていたので、SS1から全開で攻めました。タイヤは4本ともラリスタですが、フロントは使い古した山があまりないヤツで、リアはSS1の

スタート直後のアイスでブレイクしないよう、コントロール性重視で新品にしました。

舗装では結構ヨレたし、5速に入る所では怖かったですけど、ずっと出続けているので、舗装になっても道のイメージが分かっていたことが踏めた理由だと思います」と勝因を分析してくれた。勝利を運んだクルマは、何とCE9A型のランサー・エボリューションII。「いい車ですけど、部品がもうないので、これからも大事に乗っていきたくて」と最後は苦笑していた。

2位に甘んじた上原選手は、「完全に雪を想定したブレーキを装着してきたので、止まりませんでした」と想定外の舗装に苦心した様子だった。今年は舗装中心に東日本戦を追い、オールスターラリーも見据えている、とのことだ。

一方、BC-2クラスはSS1からトップ4台が1.3秒の間にひしめく大接戦で始まったが、SS1の再走となるSS3では小館久/伴英憲組が2番手を6秒近くも引き離すスーパーベストを叩き出

して混戦から抜け出す。続くSS4も同秒ベストで上がった小館組はSS5も制してリードを広げ、こちらも大差で逃げ切った。

SS1を僅差ながらベストで終えた小館選手は「実はスピンしていた」とのこと。SS3はしっかり走り切ったゆえのスーパータイムだったようだ。「最初はフロントはスタッドレスで、リアはラリスタの予定だったんだけど、レッキで危ないと感じたので、リアもスタッドレスで。人から貰った、あまり山がないのが却ってよかった(笑)。舗装になった分、速度が出て楽しかったけど、やっぱりスタッドレスは怖い。今回はちゃんとチェーン対策とかもしてきたので、ぜひ来年はこれを生かしたいですね」

全日本ジムカーナを制したこともあるスラロマーでもあるだけに、「実はスタッドレスでジムカーナコースを走ったこともある」とのこと。そんな経験も、一役買ったかもしれない。

15. BC-2クラス表彰の各選手。16. BC-1クラス表彰の各選手。

